

# 救護資機材概論

## ～日本赤十字社の災害救護リソース～



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

## 1. 日本赤十字社の救護活動にかかるリソース

- ・ 日本赤十字社が保有する資機材  
（医療セット、テント、無線、衛星携帯電話、車両等）
- ・ dERUユニット
- ・ 救援物資
- ・ その他（赤十字ボランティア、赤十字血液センター）

## 2. 災害救護活動におけるリソースの活用

- ・ 救護班として準備・携行する資機材
- ・ 個人で準備・携行する資機材
- ・ 平時における準備（管理、使用手順の確認・訓練等）

## 3. まとめ

## 1. 日本赤十字社の救護活動にかかるリソース

- ・ 日本赤十字社が保有する資機材  
（医療セット、テント、無線、衛星携帯電話、車両等）
- ・ dERUユニット
- ・ 救援物資
- ・ その他（赤十字ボランティア、赤十字血液センター）

## 2. 災害救護活動におけるリソースの活用

- ・ 救護班として準備・携行する資機材
- ・ 個人で準備・携行する資機材
- ・ 平時における準備（管理、使用手順の確認・訓練等）

## 3. まとめ

# 日本赤十字社の災害救護活動におけるリソース

病院	91病院
救護員	8,077人
常備救護班	487班 5,231人
こころのケア要員	15,335人 (指導者含む)
コーディネーターチーム	コーディネーター 170人 コーディネータースタッフ 479人
dERU (国内型緊急対応ユニット)	17ユニット
救護車両	2,206台
医療セット	219セット
テント	4,163張
衛星電話	411台
無線局 (赤十字業務用無線)	3,130局
救援物資配分数 (毛布・安眠セット・緊急セット)	毛布 346,266個 安眠セット 60,466個 緊急セット 111,782個
赤十字飛行隊 (特殊奉仕団)	103人 (令和3年度)

## 主な物的リソース

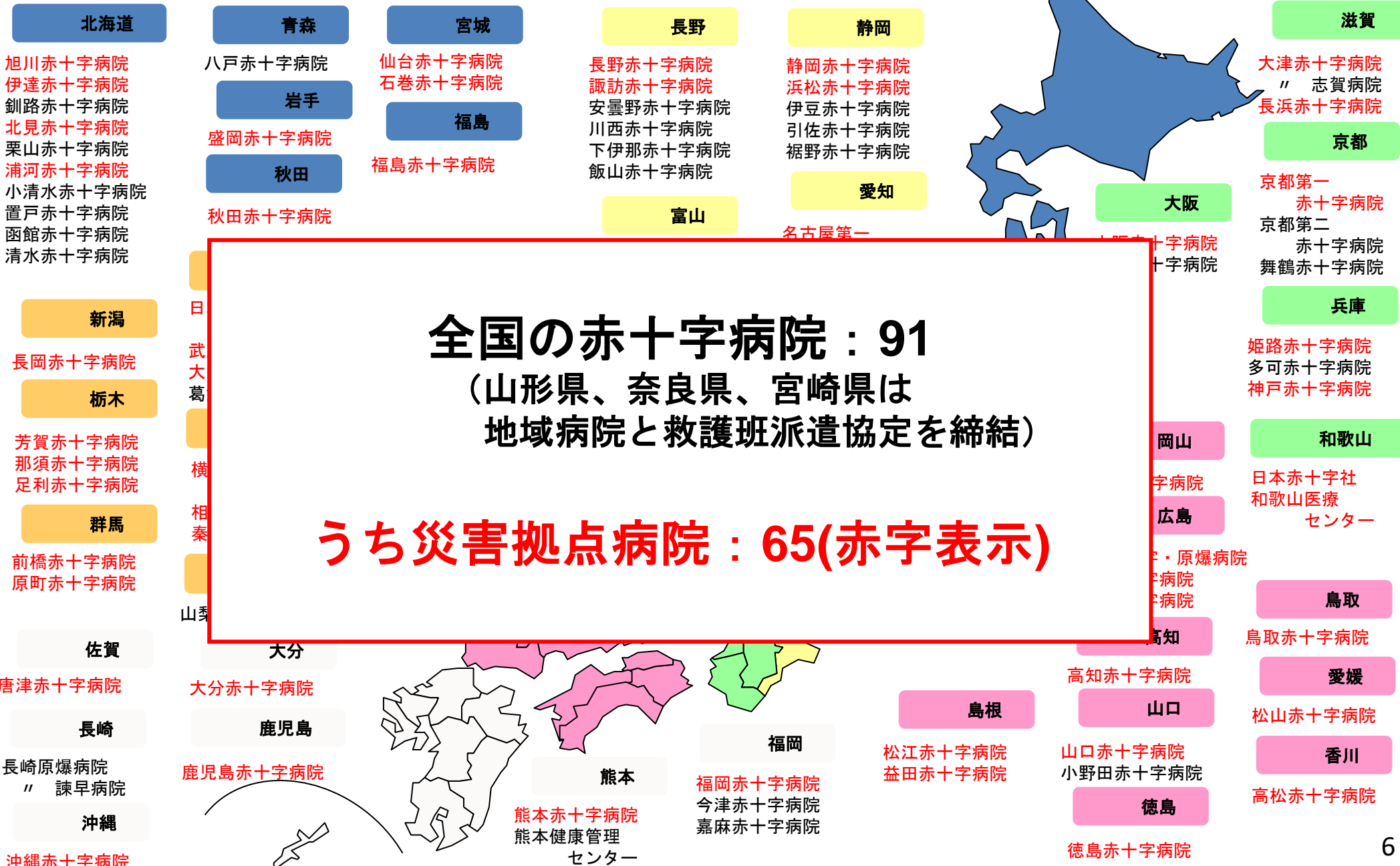
- 災害救護車両
- 赤十字業務用無線
- 衛星電話
- テント、投光器
- 発電機、蓄電池
- ラップポン
- 救援物資（毛布・緊急セット・安眠セット等）
- 支部独自で整備・備蓄しているもの
  - ・ ブルーシート
  - ・ 下着セット
  - ・ 日用品セット 等

## 主な人的リソース

- 救護班
- 日赤災害医療コーディネーターチーム
- こころのケア指導者・要員
- 原子力災害医療アドバイザー
- 支部支援要員
- 赤十字ボランティア
- 専門家（避難所環境改善やDVT予防等）
- 赤十字を支援する企業・団体 等



# 全国に広がる91の赤十字病院



**北海道**

旭川赤十字病院  
伊達赤十字病院  
釧路赤十字病院  
北見赤十字病院  
栗山赤十字病院  
浦河赤十字病院  
小清水赤十字病院  
置戸赤十字病院  
函館赤十字病院  
清水赤十字病院

**新潟**

長岡赤十字病院

**栃木**

芳賀赤十字病院  
那須赤十字病院  
足利赤十字病院

**群馬**

前橋赤十字病院  
原町赤十字病院

**佐賀**

唐津赤十字病院

**長崎**

長崎原爆病院  
" 諫早病院

**沖縄**

沖縄赤十字病院

**青森**

八戸赤十字病院

**岩手**

盛岡赤十字病院

**秋田**

秋田赤十字病院

**宮城**

仙台赤十字病院  
石巻赤十字病院

**福島**

福島赤十字病院

**長野**

長野赤十字病院  
諏訪赤十字病院  
安曇野赤十字病院  
川西赤十字病院  
下伊那赤十字病院  
飯山赤十字病院

**富山**

**静岡**

静岡赤十字病院  
浜松赤十字病院  
伊豆赤十字病院  
引佐赤十字病院  
裾野赤十字病院

**愛知**

名古屋第一



**滋賀**

大津赤十字病院  
" 志賀病院  
長浜赤十字病院

**京都**

京都第一赤十字病院  
京都第二赤十字病院  
舞鶴赤十字病院

**大阪**

大阪赤十字病院  
大阪第二赤十字病院

**兵庫**

姫路赤十字病院  
多可赤十字病院  
神戸赤十字病院

**岡山**

岡山赤十字病院

**広島**

広島赤十字病院  
広島原爆病院  
広島赤十字病院

**高知**

高知赤十字病院

**山口**

山口赤十字病院  
小野田赤十字病院

**徳島**

徳島赤十字病院

**和歌山**

日本赤十字社  
和歌山医療センター

**鳥取**

鳥取赤十字病院

**愛媛**

松山赤十字病院

**香川**

高松赤十字病院

**大分**

大分赤十字病院

**鹿児島**

鹿児島赤十字病院

**熊本**

熊本赤十字病院  
熊本健康管理センター

**福岡**

福岡赤十字病院  
今津赤十字病院  
嘉麻赤十字病院

**島根**

松江赤十字病院  
益田赤十字病院

**山口**

山口赤十字病院  
小野田赤十字病院

**全国の赤十字病院：91**  
(山形県、奈良県、宮崎県は地域病院と救護班派遣協定を締結)

**うち災害拠点病院：65(赤字表示)**

# 災害医療を支える 日赤のロジスティクス



救護班用医療セット 219セット



救護所用テント 331張



赤十字専用無線 3,130局



衛星電話 411台

# 災害医療における 日赤の機動力

救護車両 2,206台 (内 救急車145台、赤色灯あり災害救援車111台)



通信指令車



現地災害対策本部車



救急車



トラック

# dERU (国内型緊急対応ユニット domestic Emergency Response Unit)

## 主な特徴

- ・ 仮設診療所設備  
(テント・医療資機材・事務資機材・IT機器等)
- ・ トラック
- ・ 自動昇降式コンテナ
- ・ 訓練された要員

これらを円滑に運用するためのシステムの総称



## 構成 (救護班2個班 + 薬剤師 + 助産師)

- ・ 医師2人、看護師長2人、看護師4人、薬剤師1人、助産師1人、主事4人  
計14人が1チームを構成



# 救援物資の備蓄

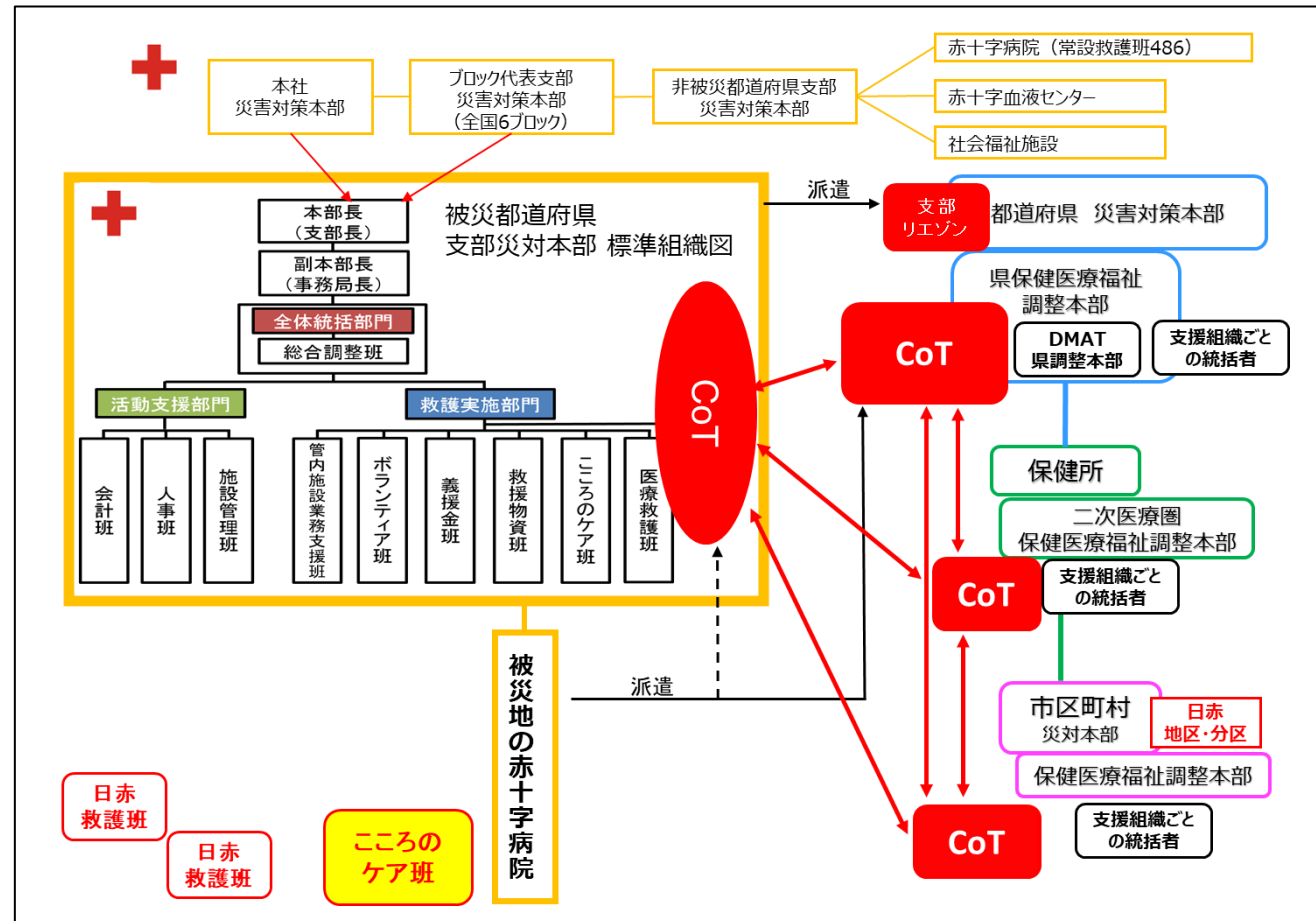
- 毛布 346,266 枚
- 緊急セット 111,782 セット
- 安眠セット 60,466 セット
- タオルケット 105,621 枚
- ブルーシート 25,675 枚

(令和5年4月28日現在)



# 日赤災害医療コーディネーターチーム

- 日赤の持つ、災害救護のリソースを、被災者・被災地へ効率的に分配できるように、被災地で有効活用してもらえるように調整するチーム
- 保健医療福祉調整本部における日赤のリエゾン（組織間連携の円滑化）
- 保健所・市区町村との日赤リソースの調整、他組織との連携
- 支部において、日赤CoTをつなぐ、支援範囲の調整、受援（支援）ライン表の作成、参集する救護班等のオリエンテーション等



# こころのケア

- 赤十字救護班の巡回診療に同行
- こころのケアチームでの活動
- 避難所、仮設住宅などでの活動
- **被災者と支援者への心理社会的支援**  
(東日本大震災：718人を派遣⇒14,000人を対象者に)

★こころのケア指導者 749人    こころのケア要員 15,335人



# 赤十字ボランティア

## ○ 赤十字奉仕団規程準則

第5条 本団は、次に掲げる実際活動に従事する。

- (1) **災害救護に関する奉仕**
- (2) 保健衛生等に関する各種事業への奉仕
- (3) 社会福祉施設及び援護を要する者への奉仕
- (4) その他赤十字の理想を達成するために必要な奉仕 (H30.3.31現在)

地域赤十字奉仕団	2,126団	1,176,477人
青年赤十字奉仕団	158団	7,055人
特殊赤十字奉仕団	648団	33,296人
個人ボランティア (赤十字飛行隊)	100機)	4,286人



## 奉仕団活動のバリエーション

- 地域赤十字奉仕団
- 安全赤十字奉仕団
- スキーパトロール赤十字奉仕団
- 無線赤十字奉仕団
- 点訳赤十字奉仕団
- 語学赤十字奉仕団
- 芸能赤十字奉仕団
- 手話赤十字奉仕団
- 朗読赤十字奉仕団
- ダンス赤十字奉仕団
- 飛行赤十字奉仕団
- 海上・船舶赤十字奉仕団
- 理学療法赤十字奉仕団
- バイク赤十字奉仕団
- 看護赤十字奉仕団
- 青年赤十字奉仕団
- 学生赤十字奉仕団
- 指圧救護赤十字奉仕団
- 病院赤十字奉仕団
- 障害者支援赤十字奉仕団
- 針マッサージ赤十字奉仕団
- 裁縫赤十字奉仕団

# 赤十字血液センター

- 赤十字血液センター 47ヶ所
- 献血ルーム等 172ヶ所（診療所の許可）
- 移動採血車 284台
- 血液運搬車 777台
- 献血者 474万人 / 年（のべ・平成29年度）



医療提供機能・血液製剤供給機能はもとより、傷病者や避難者の収容機能等のリソースとしても・・・

# 関係府省庁・企業との連携

- 関係省庁と災害救護活動に関する協定締結
- 民間企業と物資輸送・物資調達等に関する協定締結
- 合同訓練の実施



## 【協定締結状況】

関係省庁	6
民間（物資輸送）	3
民間（物資調達）	7
民間（その他）	1

# 1. 日本赤十字社の救護活動にかかるリソース

- ・ 日本赤十字社が保有する資機材  
（医療セット、テント、無線、衛星携帯電話、車両等）
- ・ dERUユニット
- ・ 救援物資
- ・ その他（赤十字ボランティア、赤十字血液センター）

# 2. 災害救護活動におけるリソースの活用

- ・ 救護班として準備・携行する資機材
- ・ 個人で準備・携行する資機材
- ・ 平時における準備（管理、使用手順の確認・訓練等）

# 3. まとめ

# 医療資機材セット

## 医療資機材の標準化 ← 救護班要員マニュアル参照

- 複数の救護班の協働
- 相互運用性や補給の簡易化
- 迅速な活動開始のための平時の準備



## 汎用医療資機材セット

- さまざまな災害活動に対応した最大公約的なセット
- 限られた医療資機材で柔軟に各種症状への対応を目的

- 救急医薬品
- 外科系医薬品
- 慢性疾患治療薬
- 事務用品



- 患者1日50名 × 2日程度の対応数量

# 医療資機材セット

- d ERU標準医療セット
  - d ERU展開用医療資機材
  - 外傷60%、急性内因性疾患20%、慢性疾患20%想定
  - 患者1日150名×3日程度の対応数量
- 初動用医療資機材セット
  - 超急性期～急性期の出動（DMATとの協働）を考慮
  - 重症者2名、中等症者10名程度の対応数量
  - 徒歩での移動を考慮した収容



\*下記内容は厚生労働省通達内容に準拠  
1号バッグ:挿管・蘇生用具・シュリンジ等  
2号バッグ:輸血・輸液関連資器材等  
3号バッグ:固定・看護・酸素吸入用具等18

# チームの資機材

- 通信機器
  - 無線・トランシーバー
  - 衛星携帯電話
  - モバイルWi-Fiルーター
- IT機器
  - ノートパソコン・タブレット
  - モバイルプリンター
  - USBメモリ
  - モバイルバッテリー
  - デジタルカメラ
- 現金
- 地図（道路地図・市街地図）
- 生活用品
  - 食器（皿、コップ、箸など）
  - 調理器具（カセットコンロ等）
  - ビニール袋
  - トイレットペーパー
  - ティッシュペーパー等
  - 携帯トイレ
- 食料・水
- 事務用品
  - 筆記用具
  - ノート、メモ、付箋
  - ガムテープ・養生テープ
  - バインダー
  - ハサミ・カッターナイフ
  - クリップ・輪ゴム
  - 十徳ナイフ
- 車両の燃料
- ブルーシート、ロープ

# 個人の資機材

- 個人防護具
  - 救護服、防寒衣、雨衣
  - 帽子、ヘルメット、ヘッドランプ、ゴーグル、マスク
  - 編み上げ靴、運動靴
  - 手袋（革手袋、ケブラー手袋等）
- 携帯電話、充電器、モバイルバッテリー
- 現金、身分証明書、運転免許証
- 生活用品
  - 衣服、清潔用品、個人医薬品、時計、予備の眼鏡
- 医療用品
  - 聴診器、ペンライト、マスク
- 事務用品
  - 筆記用具、ノート、メモ、文房具

# 災害救護活動を行うための平時の準備

- 平時からの準備が重要
  - 資機材の標準化と調整
  - 資機材チェック
    - 医療資機材の確認
    - パッキングの確認
    - 使用期限の確認
    - 使用方法の確認、マニュアル化
  - 研修・訓練
    - 基本的な使い方の習熟研修
    - 実活動に即した応用訓練
  - 平時に利用していない資機材の活用は難しい
    - 施設で採用されている資機材・医薬品への変更を考慮
    - 利用頻度の少ない資機材は研修・訓練で利用機会を作る
- いざ出動となった時
  - 季節、活動フェーズに応じた資機材の追加を考慮
    - 例 厳冬期のスタッドレスタイヤや凍結防止剤
    - 亜急性期の活動であれば、慢性疾患治療薬を増量など

# まとめ

- ・ 日本赤十字社のリソースを知ること
- ・ 平時の準備・整備が重要（研修・訓練）
- ・ すぐに持ち出せる体制
- ・ 組織・家族との事前調整
- ・ 活動中は自己完結が原則
- ・ 派遣直前に派遣される救護班員自らが資機材の確認を
- ・ ニーズに合わせた直前の準備を
- ・ 派遣元支部・派遣先支部・CoT・他の医療チームとの連携
- ・ 救護班だけでなく、日赤としてのリソースの活用を考慮
- ・ 現地のニーズに合わせた対応へ「つなぐ」ことも必要